

そうしゅうおおやままちづくり

#8 相州大山まちづくり

作者：斉藤進（さいとう・すすむ 1950-）

刊行：平成27年（2015）

📖 解題

■ 内容

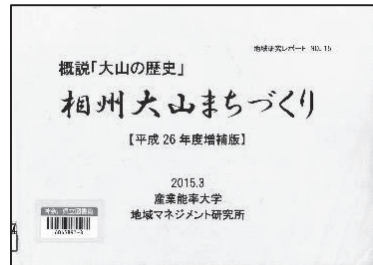
『相州大山まちづくり』は平成22年（2010）に初版が発行され、大山の魅力や特徴について、まちづくりの視点から写真やイラストを使って紹介している。

神奈川県では、平成24年に「かながわグランドデザイン」が策定され、そのプ

ロジェクトのひとつとして平成24年7月から横浜・鎌倉・箱根に次ぐ第4の国際観光の核づくりの公募を開始した。相州大山のまちづくりに取り組んでいた地域団体（大山観光振興会、伊勢原市、秦野市、小田急グループ、産能大学）が共同で『大山魅力再発見「平成大山講プロジェクト」～体感！悠久の歴史、安らぎの霊峰大山～』を提案し、平成25年に第4の国際観光の核の候補地として県の正式認定を受けた。平成26年度増補版では、このような活動についても収録されている。

構成は、目次のIからVIまでが大山の特徴や魅力、VIIからIXが大山のまちづくりの活動についてである。「IV. 大山の信仰」では、御師が大山講という組織を各地に作り、最盛期には20万人が参詣した。その際に、御師旅館では歓迎の意を表すため「まねき」と呼ばれる講名が書かれた布を門前に掲げた。また「板まねき」という木製のまねきもあり、こちらは、各先導師旅館に多く残っている。それぞれの講は、これを目印にしていた。

先導師旅館の周辺には、赤色で講名が彫られた石柱型の石垣が連続して



[K291.64/66]

第1章 地誌・案内記

組まれている。これは講中の寄進により設置されたもので「玉垣」と呼ばれ、山内には約 2500～2600 本の玉垣が残っている。これらは、現在に残る大山信仰の特徴が表れたものとして紹介されている。

「Ⅷ. 大山魅力再発見『平成大山講』プロジェクト」は、第4の国際観光の核の候補地の公募のため、共同提案として作成された提案書が掲載されている。また、平成大山講プロジェクトの一環として開催された『第1回“おおやまみち”まちづくりサミット』の共同宣言文も紹介している。

■ 作者

著者は斉藤進。産業能率大学教授。地域政策論、まちづくり参加論を専攻している。主な著書に『キッズプレースー居ごこちよい子供の住環境ー』、「地域環境点検による参加型まちづくりに関する事例研究（その1～その8）」（『研究所年報』第4～11号）、「市民協働型まちづくりの実践」（『研究所年報』第12号）がある。

参考文献

斉藤進「大山街道町並み形成の歴史の変遷についての考察」（『研究所年報』第2号 産業能率大学情報科学研究所 1988）

※当館未所蔵 産業能率大学 HP で閲覧可

『伊勢原市史民俗調査報告書 3』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1990 [K38.64/5/3]

『地方自治政策Ⅱ』倉沢進編著 放送大学教育振興会 2002 [318/626/2]